Fun with English
中学校英語教育
2020 特集号

巻頭特集

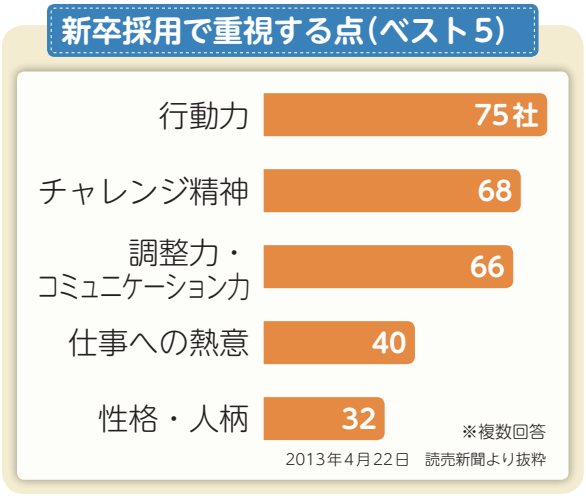
英語の授業作りの観点

田尻 悟郎（関西大学外国語学部・教授）

私は現在関西大学で教員養成科目と教養外国語科目を担当していますが、同時に昨秋第50回記念明治神宮野球大会で準優勝した関西大学硬式野球部の顧問を務めています。26年にわたる中学校教員時代の半分以上は野球部の顧問を務めていた関係で、今でもたまにノックをすることもありますが、技術指導や戦術指導は野球の専門家である監督やコーチにお任せし、私は部長として主に200名の部員の生活指導と就職活動支援をしています。

少し古くなりますが、2013年4月22日に、読売新聞が国内主要企業122社を対象に行ったアンケートの結果として、企業が新入社員に求める力の上位5項目は何であったかを報道しました。その3位にランクされたのがコミュニケーション力でした。

項目としては、「調整力・コミュニケーション力」となっており、このアンケートではコミュニケーション力が人間関係調整力の要因であると定義していると受け取れます。相手の言葉に耳を傾け、理解し受け入れる努力をし、その上で自らの立場や考えなどを論理的に且つ相手の気分を害さないような表現を以て伝える力がコミュニケーション力であり、人間関係上の問題や問題になりかねないポイントを把握し、その解決や防止に向けて言葉を使って人と人の間をつなぐ力が、企業から求められているということです。



私たちが教えている児童・生徒・学生は、いずれ社会へ出ていきます。彼らが幸福な人生を送るには、仕事が充実していることと、良好な人間関係が築けるという2つのことが必要です。どんな仕事が向いているかをともに考えてその準備をするとともに、人とうまく付き合えるためのスキルを学校にいる間に身につけさせなければなりません。学生が終わった瞬間に、彼らは社会人になるのです。

KEIRINKAN

1 ESや面接で尋ねられること

就職活動では、エントリーシート(ES)、ウェブテスト、面接という段階があります。エントリーシートや面接で尋ねられることは、例えば以下のようなものです。

人物像や性格を見る設問

自己PR（文章、パワーポイント、写真、動画)、大学での専攻と学習内容、あなたらしさが伝わるエピソード、あなたの強み・弱み・長所・短所、仕事をする上で大切にしたいこと、あなたにとって魅力のある人とは、苦手なタイプはどういう人か、その人と仕事をすることになったらどう対応するか、自分に対する周囲の評価、働くとはどういうことか、自分の生き方や価値観に影響を与えた出来事・事柄、1位になった経験、最近最も興味関心がある事柄

学生時代に努力したこと・困難とその克服経験・リーダーシップ

学生時代にがんばったこととそこから得たもの、自分らしさを発揮して成果を上げたエピソード、どのような困難・挫折を経験しどう乗り越えたか、周囲との衝突を恐れず交渉や折衝した経験、覚悟と粘り強さを持って成し遂げたこと、「熱意」「誠意」「多様性」を体現したエピソードとそこで発揮したリーダーシップ、自分以外の人のために行動した経験、自分のアイディアが形になった経験、周囲を巻き込みながら取り組んだこと

業界や企業との適合性

あなたの就職活動の軸、企業選びの際に大切にしていること、入社志望理由(業界・企業)、希望する部署とその理由

入社後のビジョンや希望

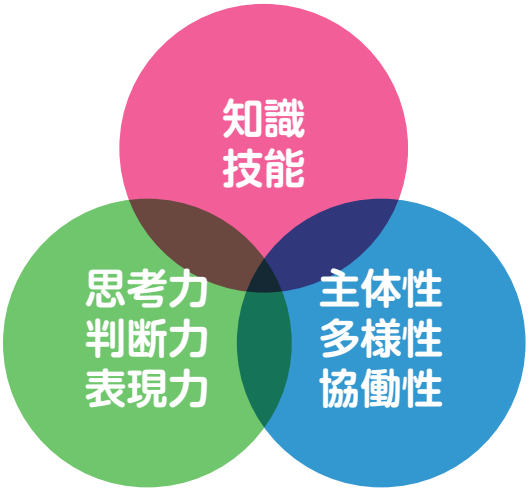
入社後にやってみたいこと・夢や目標、キャリアプラン、入社5年後の自分は何をやっているか、自分の特徴を会社でどう生かすか

発想力

社名変更するとしたらどんな社名を付けるか、大学時代を色でたとえると何色か・その理由、自身にキャッチコピーを付けるとしたら何か

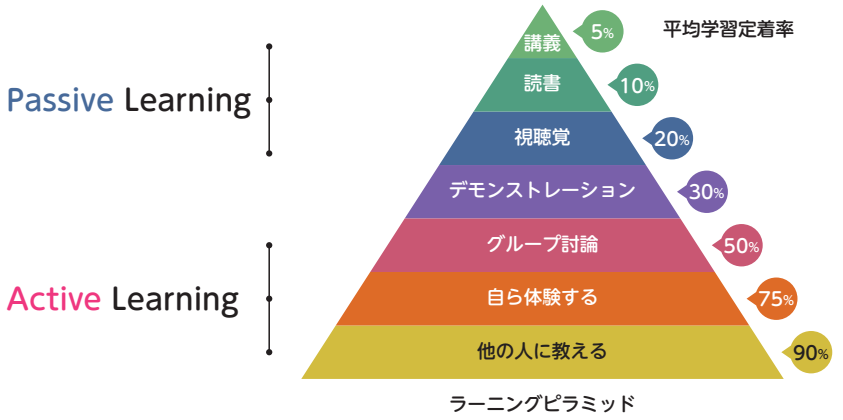
2 進路指導と学習意欲

これらの設問を見ると、社会がどのような人物を望んでいるかが見えます。ここで、学校教育法で示されている学力の3要素を見てみましょう。



この度改訂された学習指導要領でも、新しい時代に必要となる資質・能力として、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養が謳われています。就職面接やエントリーシートでされる質問を振り返ってみると、それらは全て学力の3要素や新しい時代に必要となる資質・能力の項目をどれぐらい身につけたかを尋ねるものになっていることがお分かりいただけると思います。ですから、我々はこれらの文言が単なるバズワードではなく、小中高大と連携して子どもたちにつけてやらなければならない力だと考えると、授業でやるべきことが具体的に見えてくるのではないでしょうか。

世界では、様々な紛争が起こっています。貧富の差は拡大して勝ち組と負け組ができ、それがテロの温床となっています。世界が平和で、みんなが助け合い、支え合い、豊かに暮らすにはどうすればよいか、そして自分はそこにどう関わり、どのように社会貢献し、誰に喜んでもらうのかを考えさせると、子どもは自分をメタ認知し始めます。自らの持てる力と不足している力を知り、持てる力を生かした職業を探すと同時に不足している力をつけたいと思った時、子どもは初めて学習の意義や意味を考え始めます。夢や目標を持ち、それを実現するための逆算を始めた子どもたちは、目的意識を持って意欲的に生活するようになります。将来を見据えていない生徒は、目先の楽しさに目が行ってしまい、学習に力が入りません。学習意欲は、進路指導(進学指導ではなく生き方指導)が大きく影響しているのです。



ラーニングピラミッド

※出典：The Learnig Pyramid. アメリカNational Training Laboratories

3 教科書の内容に命を吹き込む

今後、外国語学習はますます重要性を増していくことは間違いありませんが、一方で将来英語が必要でない仕事に就く生徒の数も相当数に上ります。そういう生徒に英語からアプローチすると、必要性を感じていないので学習意欲を持てません。

しかし、内容が豊かで、友と協力して何かを作り上げたり成し遂げたり、お互い助け合ったり支え合ったり、異なる考えを楽しんだり、多様な観点から物事を見ることを学んだりする授業だと、将来英語が必要でない生徒も授業にのめり込んだり巻き込まれたりします。そこでもっと知りたい、もっと知ってもらいたいと思ったタイミングで英文を読ませたり聞かせたり、何かを言おうとしている生徒に英語で表現させたりした時、生徒は一所懸命になって英語を使おうとします。グループ討論をしたり、自ら体験したり、人に教えたりすることが学習定着率を上げることは、よく言われていることですし、主体的・対話的で深い学びとなります。

小学生の時は、何にでも興味を持ち、単純な繰り返しでも楽しめていたのが、中学生になると関心ややる気を失っていく生徒が増えていきますので、中学校の英語授業を活性化するには、内容からアプローチしなければなりません。そこで、教科書の内容にどう命を吹き込むかという研究が始まります。それが教材研究です。すると、我々英語の教員はあることに気がつきます。「英語授業の内容って、国際教育・国際理解教育を含む総合的な学習の内容であり、SDGsのテーマをカバーしている！」と。ぜひ、日頃から新聞を読み、テレビを見るなどして情報を集め、教科書本文の内容に付加情報と深みを与えて、生徒を惹きつける授業をしてください。それが生徒の考える力を伸ばし、彼らの職業選択や将来構想につながっていくのですから。

新型コロナウイルスに教えられたことは、「人の命を救い、世界経済の発展に貢献することができる、常に思考し創意工夫する良心を持った人材」を輩出するのが教員ができる社会貢献であるということです。そのための教育を、英語の授業を通して展開していきましょう。

PROFILE
田尻 悟郎 (たじり ごろう) 関西大学外国語学部 教授

公立中学校7校に26年間勤務後、2007年より関西大学教授。2001年(財)語学教育研究所よりパーマー賞受賞。文部科学省学習指導要領改善協力者、大阪市教育センター『教師養成講座』座長。『(英語)授業改革論』、『英語教科書本文活用術！』、『Talk and Talk Book 1～3』、『自己表現お助けブック』など著書多数。2006年NHK総合テレビ『プロフェッショナル 仕事の流儀』、2012年度～2014年度NHK Eテレ『テレビで基礎英語』講師など、テレビ出演も多数。

実践報告

生徒の頭と心が動く英語授業を

～英語を使って何ができるようになるかという視点での指導と評価の改善～

小倉 弘之（群馬県渋川市立赤城北中学校・校長）

1 指導観を変える

今回の学習指導要領で特徴的なものに技能（領域）統合型の活動が全ての領域に設定されていることが挙げられます。例えば、「話すこと［発表］」では以下のようになっています。

> （ウ）社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき，読み取ったことや感じたこと，考えたことなどを伝えた上で，相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりする活動。

また、「読むこと」でも以下のようになっています。

> （エ）簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで，イラストや写真，図表なども参考にしながら，要点を把握する活動。また，その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。

これらのように、全ての領域でインプットして理解したことを基にアウトプットをさせていく活動が求められていきます。これは、英語４技能をバランス良く効果的に伸ばしていくために効果があると、言語学の分野からも指摘されています。後にアウトプット活動があることで、インプットに対しての注意が高まり、アウトプットする際に用いる表現を意識するなど、知識の統合が起こりやすくなるのです。また、アウトプット後に教師からの良質なフィードバックがあることで、生徒の学びは更に効果的なものとなるはずです。

そして、このような活動を繰り返し行っていくことで、「宣言的知識」（知識としてはもっているが、瞬時に使えない）を「手続き的知識」（意識せずに瞬時に使える）に変える自動化が進んでいくこととなります。もちろん、これらのことはすぐにはできるようにはなりませんので、計画的に段階を踏ませていく必要があります。

この他、次のような高度化に対応していかなければなりません。

- 取り扱う語数の増加
- 文構造や文法事項の増加（仮定法、現在完了進行形など）
- 授業は英語で行うことを基本とする

でも、指導時数は週４時間のままです。これは小学校段階で基礎ができてくるという前提のものですが、もうすでにお分かりのとおり、これまでと同じペースや方法ではやっていけないことが自明でしょう。私たち英語教師の指導観の転換が求められるのです。先に述べたように、中長期的な視点からの計画的・系統的な指導計画（単元構想）づくりが必要不可欠となるでしょう。

2 パフォーマンス評価を生かす

このように考えてくると、評価についての考え方も変わるはずです。評価は目標の裏返しであり、これらは対応関係にあります。そのため、生徒を評価する前提には、中長期的な視点で生徒にどのような力を身に付けさせたいのかが明確になっている必要があります。今回の評価の3観点の中で、特に「思考・判断・表現」では、英語の使用場面を想定し、実現させたい生徒の姿を具体的にイメージしていくことが必要不可欠であり、それによって初めて適切な評価が可能となります。

また、中学校3年間のカリキュラムを作る際には、各学年末までに生徒に育成したい力を、特定の場面や状況での生徒の具体的な姿、そして、その評価方法を明確にした上で、必要な手順や指導内容・方法を、言語材料、コミュニケーション方略、学び方など具体的に明らかにしていく必要があります。

当然、評価方法についてもペーパーテストだけではなく、スピーチ、インタビュー、エッセイ等のパフォーマンス評価や活動の観察等、多様な評価方法から生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選んでいくこととなります。実際に評価していく際にも、今回の改訂の趣旨を正しく理解し適切に評価していくことが「英語嫌い」を作らないために大切です。例えば、「話すこと(やりとり・発表)」で即興で行う活動の際には、言語的な正確さよりも、やり取りや発表がどれだけ継続できるかという視点から評価することが必要で、段階を追って正確さを追っていくようにするとよいでしょう。

また、指導を行っていく際には、単元や活動の導入時に、ルーブリックも含め生徒に目指すゴールの姿を具体的に提示することで、どのように学習を進めたらよいかを生徒自身が意識し、学習の見通しをもてるようにしていくことが大切です。そして、活動中には生徒個々のパフォーマンスの状況を把握し、必要に応じて、できているところや改善を要するところを具体的に提示し、さらに、活動後には、これまでの自らの学習をふり返らせ、分かったりできるようになったという満足感や、考えを巡らせ判断したり、表現し合ったことの充実感、そして、思うようにいかなかったことや今後の課題を自覚させていくことが大切です。これら「見通し」と「ふり返り」をさせていくこと、そして教師からの適切な支援が主体的な学習者の育成につながるとともに、一人一人の生徒の学びの質を高めていくこととなります。

3 生徒の頭と心が動く授業づくりを

これからの英語指導の在り方について、これまで述べてきましたが、やはり大切になるのは「英語で何ができるようになるか」そして「いかに思考させるか」です。

その際に必要となってくるのが、活動や題材の質と内容です。このことは中教審の答申でも「生徒が興味や関心をもち、考え表現する必然性を有するような題材が求められる。」と指摘されています。言語材料の練習や言語活動では知的好奇心をくすぐる、伝えたくて言葉を吟味する、相手を推し量るなどの知的な面白さを味わわせることです。また、教科書の題材をどのようにアレンジして、より効果的なものとするか、どのような提示の仕方をするか、どのようにして生徒に思考させ表現活動までつなげるかによって、テキストは血の通った魅力的なものになり、言語活動も質の高いものになっていくはずです。生徒の頭と心が動く授業づくりに挑戦していきましょう！

【引用・参考文献】
・浜みか（2020）「授業に適切なアウトプット活動を取り入れることで、英語４技能をバランスよく効率的に高める」GTEC 通信　ベネッセコーポレーション
・文部科学省 (2017)『中学校学習指導要領　外国語編』

PROFILE
小倉 弘之（おぐら　ひろゆき）群馬県渋川市立赤城北中学校 校長

1964年群馬県生まれ。修士［学術］。群馬県の公立中学校で13年間英語を指導。その後、沼田市教育委員会、群馬県教育委員会利根教育事務所指導主事、公立小・中学校教頭を経て現職。中学校学習指導要領外国語編（平成20年度）の作成協力者。英語授業研究学会理事。群馬県中英研会長。主な著書に『小学校外国語「二大テーマ」に答えます～「小学校外国語不安」と「小中連携」の各地域の取り組み～』（啓林館）など。

実践報告

小学校専科の立場から考えた中学校英語授業の再デザイン

山﨑 寛己（新潟市立下山中学校・教諭）

2019年度、中学校の現場を離れ、小学校英語専科教員として高学年を担当しました。児童の姿から学んだことをもとに中学校の授業を再考したいと思います。

1 「練習」から「言語活動」へ

A : What do you do after school?
B : I like to ～ after school.

（不定詞の導入後）「今日はこのパタンを使って学習します。to ～ に自分のすることを入れましょう」

かつて私が文法導入後、言語操作練習の一つとして行った活動です。ここで生徒がtoの後に自由に動詞を入れ、上手にやりとりをすることで良い言語活動ができていると思っていました。しかし小学校で授業を行う中で、上記のような活動にはいくつかの問題点があることが分かりました。

1つ目は、使う場面が設定されていないということです。ご存知のように、小学校での外国語（英語）授業は場面シラバスで構成されています。買い物、日課、世界の国々などがあります。言語材料だけを取り出して練習をしても、「何のために」やりとりをするのかが見えなければ、無味乾燥なドリルになってしまいます。

2つ目は、型を示しすぎると言いたいことに出会えないという点です。冒頭の例で言えば、「放課後は毎日習い事で忙しくて、好きなことしてるヒマなんてないんだよね」といった生徒も無理やりlike to ～を探すことになります。もちろん練習の機会として一定の型も必要だとは思いますが、毎回それを続けてしまうと生徒の自律的学習を妨げることにつながります。

新学習指導要領（平成29年告示）で、言語活動は「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を基本とすると示されました。中学校の授業ではこれまで、型を重視した「練習」が多く展開されていました。今後はそれらを経た上で、様々な「言語活動」を行うことが求められます。

2 場面の中で使いながら学ぶ

小学校5年生のWhere do you want to go?（『We Can! 1』を使用）の単元で「旅行代理店になってALTに旅行を提案しよう」という課題を設定しました。実際の旅行会社と共同企画して、接客の心構えをレクチャーしてもらった上で、本物の世界旅行パンフレットを用いて地域のALT達を接客しました。単元最初の授業で、「どんな表現が使えたら旅行を提案できるだろう」とクラスで考えました。児童たちは「どこに行きたいですか？」「△△ができますよ」「〇〇がオススメです。理由は□□だからです。」など次々に提案に必要な表現を挙げました。そして使うべき表現の見通しを立てた上で、それらを一つずつ使う場面を想定した中で学習していきました。接客当日の様子を紹介します。

台湾を紹介しているグループのある児童の発話

Student : Do you like sightseeing?
ALT : Yes. I want to see nice scenery.
Student : OK. You can see Taipei 101. （夜景写真を見せて）
It's beautiful.



練習してきた表現を見事に用いて、ALTに旅行を提案する姿がありました。このような言語活動から児童たちは自信や達成感を得て、表現自体もより印象に残ったと思います。

中学校でも場面を意識した言語活動を行うことができます。次の写真は，中学校2年生で未来表現を学習する単元のまとめとして取り組んだ「夢の旅行計画」の生徒作品です（一部を抜粋）。



「夏休みを利用して世界のどこにでも旅行に行けるとしたら」という設定で、小学校と同じく旅行会社のパンフレットを使用して課題に取り組みました。生徒は未来表現に限らず、there is/are、I think that、複文などの既習事項に加えて、調べ学習で現在完了（サグラダファミリアの説明）を駆使して表現しています。

どんな場面・目的で言語を使うのかという大前提を考え言語活動を行うことが、中学校の授業にもより必要な視点だと考えています。

PROFILE

山﨑 寛己（やまざきひろき）（新潟市立下山中学校 教諭）

1987年新潟市生まれ。上越教育大学・大学院を修了後，大阪府で勤務。英語授業改善推進リーダー，小学校英語専科教員を経験する。2020年4月より現職。多様な子どもが学ぶ公立学校での授業のあり方について模索中。英語授業研究学会関西支部運営委員。主に小学校での実践を執筆した『小学校外国語教育の理論と実践（仮）』（大場浩正 編著）が2021年発刊予定。

3 様々な配慮と足場かけを

小学校外国語の教科化で、小学校・中学校の教員が互いに考えなければならないことを挙げます。

1 文字指導上の配慮

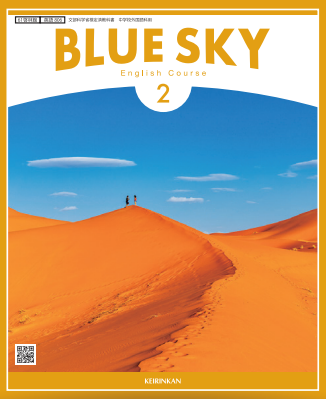
文字指導は、音と文字を多感覚で学ぶJolly Phonicsなどを用いて教えることが効果的です。そこで意識したいことは、教材として提示する文字のフォントです。教員は，つい手書き文字風の書体を選びがちですが、実は活字体と同じ構造でできているため児童・生徒が手本とするフォントとして適切ではありません。書き写す活動で手本となるSassoon系のフォントやモリサワのUDデジタル教科書体が効果的でしょう。多様な児童・生徒が学ぶ教室では、プリントやスライドなどで提示する英語のフォントが統一されていることも重要です。

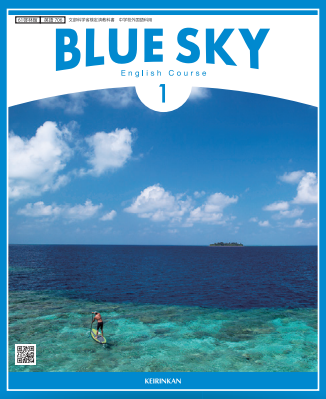


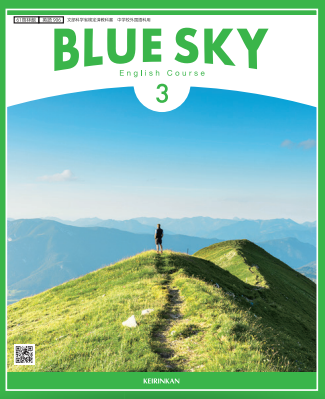
2 活動に足場がけを用意する

現在、教室には様々な熟達度の生徒たちがいます。どの生徒も授業で達成感や伸長感を味わえるよう、学習活動に「ヒントあり」と「ヒントなし」を用意するなど足場がけをする必要があります。小学校で学習をした児童たちは、中学校で文法や語彙の知識を得て、色々なトピックで話したり、書いたりする機会を楽しみにしています。子どもたちの「できる」を引き出す、魅力的な授業を創造したいものです。

【参考文献】・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領 外国語活動・外国語編』







2021年4月より弊社WEBサイトで順次公開

中学校で習う文法事項を手書きの解説と先生の声で解りやすく解説!

スマートレクチャー BLUE SKY

タブレット パソコン スマートフォン で視聴できます!!



動画コンテンツ 約70本

サンプル動画視聴方法



2年 Unit 1 Target 1
There is [are]~の文

YouTubeで Webブラウザで



3年 Unit 6 Target 16
名詞を後ろから修飾する分詞

YouTubeで Webブラウザで

※利用料は無料です。通信料はお客様のご負担となります。

※動画は専用プレイヤーによる再生のほか,Webブラウザ・You Tubeで視聴できます。

2021年度用 中学校教科書 内容解説資料

Fun with English

編集・発行 啓林館東京本部 TEL(03)3814-5183(直通) デザイン・印刷 株式会社スタジオヤマト・木野瀬印刷株式会社 教授用資料

知が啓く。 啓林館
https://www.shinko-keirin.co.jp

本 社 〒543-0052 大阪市天王寺区大道 4 丁目 3 番 25 号 TEL (06) 6779-1531
東京支社 〒113-0023 東京都文京区向丘 2 丁目 3 番 10 号 TEL (03) 3814-2151
北海道支社 〒060-0062 札幌市中央区南二条西 9 丁目 1 番 2 号 サンケン札幌ビル 1 階 TEL (011) 271-2022
東海支社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 1 丁目 15 番 20 号 ie 丸の内ビルディング 1 階 TEL (052) 231-0125
広島支社 〒732-0052 広島市東区光町 1 丁目 7 番 11 号広島 CD ビル 5 階 TEL (082) 261-7246
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 1 丁目 5 番 6 号ハイヒルズビル 5 階 TEL (092) 725-6677